

# アンガングル

2015. 3. 1

No.34

内容について、ご意見、  
ご感想をお寄せください。

編集・発行 中野区男女共同参画センター 〒164-8501 中野区中野4-8-1 TEL(3228)8229 FAX(3228)8860

## 女性が今求められているのは？

現在日本は2014年世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ（各国の社会進出における男女格差を示す指標）」の報告書によると142カ国中104位でした。この指標の上位国はアイスランド、フィンランド、ノルウェー、スウェーデンでしたが、この上位国は女性が正規で働き、子どもを産める環境が整っている国です。さらにその環境が整っている国が経済も発展しているのです。

今回のアベノミクスの一つに女性の活躍が挙げられていますね。

日本も継続可能な国として経済発展するためには、その政策（「女性の活躍法」、「すべての女性が輝く政策パッケージ」）が必要だったようです。

安倍政権の成長戦略はこのようなものだった・・・

### ＜女性が輝く日本＞

「待機児童の解消」「職場復帰・再就職の支援」「女性役員・管理職の増加」

- ・5年で40万人分の保育の受け皿を確保する待機児童解消加速化プランで、平成29年度末までに待機児童の解消を目指します。
- ・「全上場企業において、積極的に役員・管理職に女性を登用していただきたい。まずは、役員に、一人は女性を登用していただきたい。」
- ・「子育ての経験を生かし、この機に自分の会社を立ち上げようという方には、起業・創業時に要する資金援助も用意します。」
- ・育児休業した労働者の円滑な職場復帰を支援し、「女性が働き続けられる社会」を目指します。
- ・「私は、待機児童の早期解消に向けて、このいわば「横浜方式」(※)を全国に横展開していきたいと考えています。」

※企業の参入を促したり、空きのある保育施設を紹介する保育コンシェルジュを設けるなどして待機児を減らす方式

## 活躍=輝く なののでしょうか？

- ・では女性は今まで活躍してなかったのでしょうか？
- ・活躍しないと輝かないのでしょうか？

今回「女性の活躍法」は制定されませんでした。もう一度働くこと、生きること、自分自身のことについて改めて、考えるときなのではないのでしょうか？

それが男女共同参画社会を考えることになると思います。

## 男女共同参画週間講演会の報告

料理研究家の枝元なほみ氏をお迎えしました。

### 『食』で出会った大切なこと ～今!!変わろう、人生の 豊かさを感じて～



平成 26 年 6 月 29 日土曜日、産業振興センターにて行われました。

参加者は 20 代から 70 代まで幅広い年齢層のかたに来ていただきました。

話は枝元さんの料理研究家となったきっかけ、料理をする時の思いについて語っていただくことから始まりました。

枝元さんの料理研究家としての一歩は、中野にある「カルマ」という無国籍レストランから始まりました。どこかの学校に行ったり、先生に就いたりして料理をしてこなかった分、成功するとき、しないときでたくさん料理について一生懸命考え、豊かに生きていくことを知り、今もそのことを大切にされているそうです。その豊かに生きていくことについても枝元さんの海外での体験を通しお話が続きます。そこでの体験は外国に限られた豆、野菜、ご飯のみの料理でしたが、物が少ないとものごとがシンプルになると感じ、人は生き物なんだと・・・ただ平和にきちんと食べられる幸福、その風景が母に見守られているように心地よかったです。「人と共に生きてゆく」自分の状況を把握し自分は今何が欲しいのか、必要性を考え、言葉を形にする。その行為が豊かに生きることと知っている大切さを感じて欲しい。

大量生産する大きな会社から物を買うのか、シンプルで信用できる小さい会社から買うのか？1日3回食事の分だけ、私たち日本人は日本の社会経済、食の安全性、本当に必要なものなのか、判断する選挙をしているんです。

鯉節は世界で一番固い食料、これは日本が誇れる技術の一つです。そのことが大事と気付く価値観、自分の七代先まで考えて



大事なものを選ぶことが必要です。社会変えるチャンスがある！未来がある！人に任せるのではなく自分を変えていく、政治家では出来ないこと、買うことで社会を変えるのです！！

枝元さんから私たち一人一人の判断が日本をそして自分を、さらには自分の未来も幸せに、豊かにできると教えていただきました。

## 「子育てをやり直したかった。」

昨年亡くなった女優の淡路恵子さんが、最期に残した言葉がこれだ。壮絶ともいえる人生を生きた女性が最期まで思い続けたのが子どもだった。この言葉に共感する人がどのくらいいるかはわからないが、少なくとも私は共感できる。私自身、子どもが成人した今になって、“あの時ああすれば良かった”という思いはつきない。もっと子供の思いに寄り添ってあげれば良かったと思う。

生きがいのため、生活のため、働く女性が増えた。家のことや子どもにかけられる時間も当然限られる。子どもの幸せを願い、できることなら苦労はさせたくない。自らが毎日、試行錯誤を繰り返しながら生きる中で、一所懸命最善をつくそうと頑張っている姿が見える。そういう母親たちを応援できる社会であってほしいと思う。それが、子ども一やがて大人になるすべての人にとってのエールになるのではないかと。一昔前は我が子の人生の行方がまだよくわからない段階で親はこの世を去ったものである。幸か不幸か子どもの人生がある程度見届けられるまで人間の寿命が延びてしまった現在、子育てに満足できることはあるのだろうかさらに、それを考えるのは母親なのか？父親なのか？両方とも親なのになにがそうさせるのか？

なお、淡路恵子さんの長男、俳優島英津男さんは、なぜ母親がそんな思いを抱き続けていたのか、ずっと疑問だったそうである。あなたは何を思いますか？

編集委員 山口



## 日本でも「クォーター制」の導入を検討・・・？

さて、「クォーター制」とはそもそもどういった制度なのでしょう。

それは、男女機会均等を目的として、公的機関・公的委員会に一定の割合の女性枠をあらかじめ設けることです。実際に諸外国の状況を見てみると、

国会議員のクォーター制を憲法で定めている国：14 か国

国会議員のクォーター制を選挙法で定めている国：38 か国

地方議会議員のクォーター制を憲法・法律で定めている国：30 か国

となっています。また、会社法により、企業の取締役に関しても同様の規定が設けられています。

日本では、2003 年に男女共同参画推進会議において、「2020 年までに企業の指導的な地位に女性の登用が 30%を超えること」という計画があげられました。最近では安倍首相が経済 3 団体に、すべての上場企業で執行委員、取締役などの役員のうち 1 人は女性を登用するよう要請しました。しかし、男女雇用機会均等法から 30 年近く経過した現在でもなお、女性の働く環境が整備されているとは言い難いなかで、制度だけ設けることを疑問視する声があるのも事実です。実際現実を鑑みて、管理職になることを選ばない、あるいは選ばない女性もいます。

女性が働くための、もっとゆるやかな社会が構築されることが「クォーター制」の導入には不可欠ではないでしょうか。

## 事業実施報告

編集委員も参加しました！

### キリン株式会社取材に行ってきました

キリングループの女性活躍推進

～2021 年多様な人材が活躍している組織を目指して～

男女雇用機会均等法施行（1986年）から28年経った。まだスタート地点となる採用の段階で差別がおこなわれているのではという意見も聞かれる。ましてや、採用されてからの働き方の課題としては育児や介護、家事へのフォローのない中で活躍を制限されるという現実にもぶつかる。表向きの形だけのアリバイとして「女性が輝く」という宣言が言われているけれどこの言葉の意味が曖昧なまま独り歩きが続いている。男性でさえ正規で働くことが難しい昨今なのに・・・とも。

スタート地点から女性の活躍は閉ざされてしまいそうな気配が見え隠れしている。男性女性というところでの優先順位を決めるのではなく性別や国籍年齢などの多様性を認め合うダイバーシティの発想のもとに職場の改革に取り組んでイノベーション（技術革新）に繋げようと試みる会社があるということで訪問して話を伺った。

中野四季の森公園にある「キリン」の本社である。「女性の活躍推進」をトップダウンでおこなっているという。利潤を挙げるからこそが必須の民間会社での取り組みとしては興味を惹かれるものを感じた。まず新卒の採用の段階で女性の割合を4割にするという具体的な比率の向上を目指したポジティブアクションに注目した。そして女性にとっても職場にとっても意義のありそうな「前倒しキャリア」という育成の方針。将来予想される、育児や介護等への時間制約というポイントへの着目である。育成の段階では早めに仕事経験を積み、できる仕事を早期に習得し成功体験により得意領域を作らせるという背中を押すの実現がある。休業の後でも本人は自信を持って復帰でき職場としても安心感を持って受け入れられる。より良い仕事復帰への継続が期待される。そしてファミリーサポートを強めることにより普通に働ける環境整備を目指しているようだ。2021年への長期ビジョンがどのように花開くのか楽しみである。そうした中で、周りの環境整備に支えられながら女性の側としても働き通すという強い気持ちを持ち、自他共に認められる働き方へと自分を高める努力と相対的な仕事力を身につけることが大切になる。組織の中の人間関係を乗り越える勇気も必要だ。職場組織の中で女性のネットワークを作り研修に導いていくというシステムも構築しつつある。誰もが働き方・日常・人生と影響し合ってバランス良く生活できる日はまだまだ遠いかもしれないが、今回キリンに取材させて頂き、その希望を捨てないでいたいものであると感じた。

編集委員 青地

# ICTを活用した多様な働き方セミナー



～テレワークが生み出す新しい働き方～  
東京商工会議所中野支部・中野区産業振興推進機構との共催で、中野区内事業所の方を対象に行いました。

◆日時：平成 26 年 10 月 24 日(金)

14：00～16：00

◆会場：ICTCO(中野区産業振興拠点)

◆講師：田澤 由利氏

(株式会社テレワークマネージメント代表取締役)

◆参加からのコメント

- ・在宅勤務に対する考え方が変わった
- ・業務内容によってテレワークの可能性が異

※テレワークとは

テレワークとは、情報通信技術(ICT)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことです。

# 自分のための再就職

～自分を見つめなおすことから、

就活・面接対策まで～

2回の連続講座終了後、希望者のみ交流会を行いました。

◆日時：1回目 平成 27 年 2 月 3 日 (火)

2回目 平成 27 年 2 月 10 日 (火)

時間はともに 13：30～16：00

◆会場：産業振興センター

◆講師：油井 文江氏 (女性ビジネス支援専門家)

◆参加者からのコメント

- ・目的がはっきりしそうです。
- ・わかりやすく、あきなく聞くことができました。
- ・なんの為に再就職するのかしっかり考える機会が得られました。
- ・ハウツーだけではなく、理論や統計、実体験に基づいた話に説得力があった。



## 編集後記 from 区民編集委員

4月に雪が降った思い出があります。27年も前になりますが転勤した新しい職場での初顔合わせの日、よくわからない道を遠く感じながら雪まみれで辿り着きました。今年は冬に逆戻りの3月となり、4月はどうなるのかと心配になったものです。春は何かを終えたり始めたりの節目の季節であり、思い出が強い印象として残りますね。10年日記をつけて20年以上になりますが折に触れて読み直しをするのも面白いものです。経験を踏まえながらも取材の裏付けを基にした記事を心がけています。

編集委員 青地

3月も半ばというのにまだまだ寒い日が続いていますね。暖かい陽射しが待ち遠しいです。毎回自分の感じていることをただ書いていただけで本当に申し訳ないのですが、こうして今年もアンサンプルの編集に携われて良かったです。それぞれが、それぞれの場所ですごしていることを編集作業を通じて感じます。わたしも負けずに頑張らないと・・・と、私自身が元気をもらっているようです。

編集委員 山口



中野区男女共同参画センター  
アンサンプル

〒164-8501 中野区中野4-8-1

区役所内 1階9番窓口

Tel 03(3228)8229 Fax 03(3228)8860

Eメールアドレス danjosenta@city.tokyo-nakano.lg.jp  
▶窓口 月～金曜日 8:30～17:00(祝日、年末年始は除く)